

旭川市報道依頼

各報道機関 様

KJ00045885

2023年3月7日

発信課	社会教育部文化振興課
担当者	鈴木 ひな子
連絡先	電 話 8-6324
	FAX 0166-25-8210
	E-mail bunkashinko@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日 程	令和5年3月15日～3月21日
発表項目 (行事名)	旭川市民ギャラリー3月の展示案内について
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>旭川市民ギャラリー（宮下通11丁目 上川倉庫蔵囲夢内）の展示会を次のとおり開催しますので、周知の御協力をお願いいたします。</p> <p> 展覧会名 小野千世絵本原画展 主催 ガラリーマイクロコスモス 内容 絵本原画，書籍の展示（38点予定） 日時 令和5年3月16日（木）～3月21日（火・祝） 10：00～17：00（最終日は16：00まで） 入場料 無料 その他 3月15日（水）は事前申込み者限定で、作者の小野千世さんによる琉球舞と、色校正担当者の近島哲男さんによるギャラリートークを開催。 開場13：00，開演14：00（2時間程度の予定）。 こちらのイベントは事前申込みと参加料3,000円が必要となります。 参加希望等のお問合せは、ギャラリーマイクロコスモス（0166-22-3567）まで御連絡願います。 </p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道（取材）に当たってのお願い	報道依頼に関するお問合せは、文化振興課（担当：鈴木）まで御連絡願います。 （文化振興課 25-7558）
備 考	



小野千世 絵本原画展

会場：旭川市民ギャラリー (入館無料) 旭川市宮下通11丁目 蔵田夢内

日時：2023年3月16日(木)～3月21日(火・祝日)

開館：10:00 閉館：17:00 (最終日は16:00閉館)

特別企画 3月15日(水) 作者による琉球舞とギャラリートーク

開場 13:00 / 開演 14:00

*こちらは事前申込みと参加料が必要となります(60席限定)

お問合せ ギャラリーマイクロコスモス 村田和子

tel & fax : 0166 - 22 - 3567 / 携帯 : 080 - 5581 - 3567

e-mail : kazukomurata0718@gmail.com

主催：ギャラリーマイクロコスモス

後援：旭川市教育委員会、北海道新聞旭川支社、朝日新聞・読売新聞・毎日新聞各支局、
あさひかわ新聞、メディア旭川、北海道経済、FMリベール、旭川ケーブルテレビボト



小野千世（おのちよ）

宝生流シテ方楽師近藤禮（こんどうれい）の次女として、東京滝野川区（現在の北区）に生まれる。1945年3月4日の空襲で家と兄禮之助を失う。一家は能楽の縁をたより、終戦間際に北海道小樽へ疎開。

戦後、札幌の女子高に通い始めるが寄宿舎生活になじめず、高校2年の時に月形町の札幌マリア院の養護学校に移り住み、修道女と一年間を共に暮らす。

その時の思い出を綴ったものが絵日記『花と木柗』。この絵日記が画家の谷内六郎さんの目に留まり絵本作家の道を歩み始める。谷内さんと親交のあった上皇后美智子さまも、皇太子妃の時代に高く評価されていた。

現在もNHK文化センターで文章教室を受け持っている。



絵日記『花と木柗』原画

『花と木柗』は先の見えない今の時代を生きる若い人に渡す魂のバトン。



（幻冬舎 2022年）

◆ 今回市民ギャラリーに展示する原画と絵本



（至光社 1968年）



（至光社 1978年）



（至光社 1983年）



（至光社 1984年）



（至光社 1989年）



琉球舞 四つ竹

清らかに澄んだ四つ竹の響きに合わせ、華やかな衣装と大輪の花笠をかぶり演じられる祝いの舞踊。琉球王国の暖かな風を届けます。

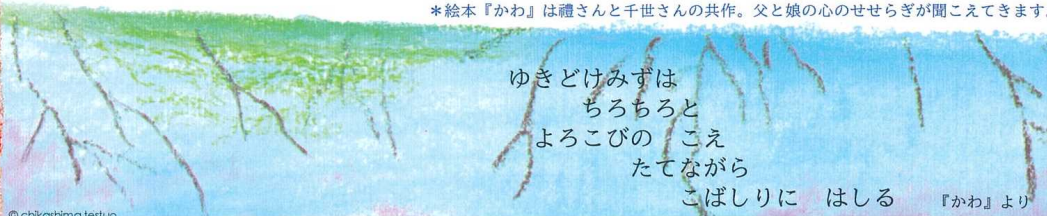
近藤禮

明治39年（1906年）8月12日東京生まれ。人間国宝になった近藤乾三の実弟。温厚篤実な人柄で後輩に慕われていた。釣りを趣味とされ、動物好きで小鳥や犬をいつもかわいがっていた。疎開していた時代には、稽古をつけに旭川に出向いていた。平成2年11月29日永眠。



愛犬と（昭和29年頃）

* 絵本『かわ』は禮さんと千世さんの共作。父と娘の心のせせらぎが聞こえてきます。



ゆきどけみずは
ちろちろと
よろこびの こえ
たてながら
こぼしりに はしる 『かわ』より